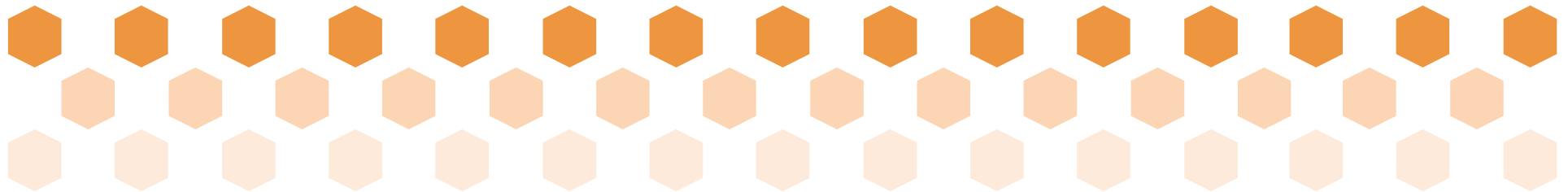
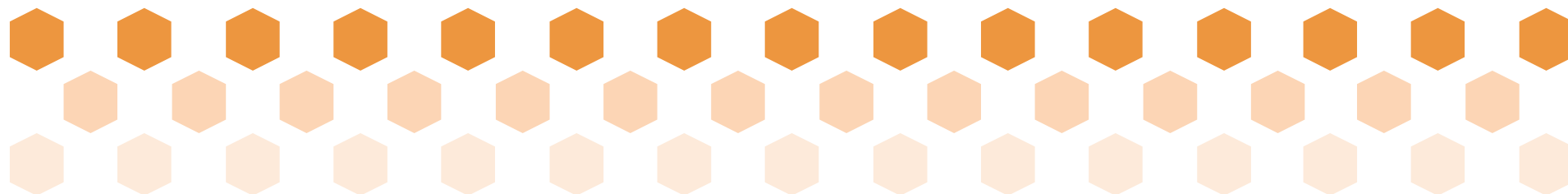


J A S 制度の今後の展開について



内外における訴求力向上のためのJASマークの見直し



差別化目的のJASに対応する新マーク

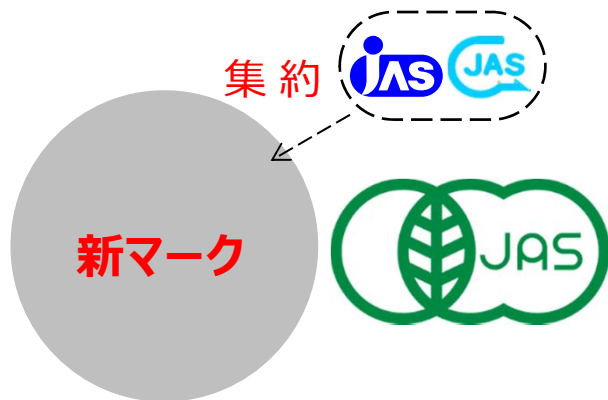
- 今後のJASでは、その認証取得が海外市場も含め高い訴求力を持つ**差別化目的の規格の制定・活用を促進**。
- こうした方向に対応し、平準化を目的とする従来のJASとは異なるものであることを強調し、内外におけるプレゼンスを高めるため、**差別化目的のJASには新たなイメージのマークを一般投票を通じて新設**。

- 差別化目的のJASには現在複数のマークが存在。
- 今後、差別化目的のJASの制定・活用の増大が見込まれることから、**マークの訴求力を分散させないよう、既存マークは新マークに集約**（有機JASマークは存置）

差別化目的

- ※高付加価値JAS
- ※こだわりJAS

（相当程度明確な特色があるものとして、特定のもののみが実現可能な内容・水準）



平準化目的

（産品・事業者一般が満たすべき／満たし得る内容・水準）



それぞれのマークに認証内容が一見して分かる標語を付す

今後のプロセス

- **新マークの認知を高めるため**、新マークの策定は、一般からの投票を行うなど、**内外の関心を高める方法により実施**

6月 新マークデザイン候補の決定

7～8月 **一般投票（1ヶ月程度）**

※ **在外投票も実施**

夏以降 新マーク決定・公表

※ イベントなどにより新マークを周知

認証内容が一見して分かる標語

- JAS認証の内外における訴求力を高めるため、**認証内容を端的に示す標語をマークに付与。**
- JASマークの標語については、以下により設定。
 - ① 取引に当たって、**規格の詳細を認識する機会のない需要者（一般消費者）向けの規格を対象**とし、規格の詳細を熟知している需要者（事業者）間の取引に専ら用いられる規格は対象外。
 - ② **日・英両語を設定。いずれを使うかは事業者の任意。**
 - ③ 当分の間は、標語のない旧様式のマークも使用可。

【既存規格の標語案】

日本語	英語	マーク
日本品質	Japan Quality	
特級	Japan Extra-high Quality	
上級	Japan High Quality	
標準	Japan Quality	
有機	Organic	
地鶏肉	Jidori chicken	<div style="text-align: center;">  <p>新マーク</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>当面は</p>  <p>も可</p> </div>
手延べ	Japanese traditional handmade	
りんごストレート ピュアジュース	Not from concentrate No antioxidants	
熟成	Aged	
生産情報公表	Production details	
定温管理流通	Temperature controlled	

J A S の新たな取組



SDGsの実現に資するモデルのJAS化

- 社会的課題について、自社らの強みを盛り込んだ解決・実現モデルを標準化し、優位性を発揮しようとする動きが加速。その対象として、近年、SDGsに注目が集まっているところ。
- こうした動きに呼応し、JASにおいても、SDGsの解決・実現に寄与するモデルについて、国際展開を見据えて規格化を検討しているところ。

SDGs(持続可能な開発目標)

: Sustainable Development Goals
2015年「国連持続可能な開発サミット」で採択された17の目標

※ 5月14日～18日、岡山で開催されたPASC（太平洋地域標準化会議）総会では、「SDGsを達成するために標準化が果たすべき役割」がテーマに。

参考：右図は国連広報センターより引用



完全養殖技術による持続可能な水産養殖のJAS

- 持続可能性が非常に高い完全養殖技術は、我が国の強み
- JAS規格・認証により、海洋と海洋資源の保全について、既存の国際規格（ASC）より高水準の取組を展開していることをアピール

障がい者が主体的に携わって生産された農産物のJAS

- JAS規格・認証により、就労不足と低賃金の解決、農業の担い手不足と耕作放棄地の再生に寄与
- さらに、国際規格化により、その賛同者・支援者層を広く発掘・拡大。先行して取り組む我が国が優位性を発揮

JASを通じた安全管理の実践

- JAS認証に当たっては、認証の技術的基準として、規格に定められた品質を維持するために必要となる一定の管理方法や施設を要求。
- 他方、これらの管理方法や施設は、品質管理上必要なだけでなく、安全管理上も必要とされるものであるため、**JAS認証を取得している事業者は、安全管理上必要な事項も一定程度実践している実態。**
- HACCPの義務化も見据え、**JAS認証を取得すれば安全管理を実践しているといえる水準に認証の技術的基準を見直し、安全管理の取組も見える化。**
- あわせて、いわゆる安全管理認証を取得している事業者については、JAS認証の手続を簡素化。

JAS認証と安全管理の関係イメージ

(いわゆる安全管理認証)

